

モンゴル人研修生来校

JICA（国際協力機構）によるモンゴル人青年を対象に環境保全をテーマにした研修事業の一環として、「自然エネルギーの現状と促進」と題し、本校の川崎技術長による講演が11月14日（水）に図書館AVR室において研修生の総勢30人を対象に行われた。

研修の冒頭、廣瀬校長から学校概要に加えモンゴルとの交流についてこれまでの経緯を踏まえ説明があった。

川崎技術長による講演では、既存エネルギーと風水力・太陽光等の自然エネルギーとの比較によるCO₂排出ガス量の違いがパワーポイントにより視覚化され、自然エネルギーの使用が温室効果ガスの軽減による大気汚染物質の削減に効果を発揮し、モンゴルの遊牧民のために開発した風力発電機の改良が進められていることについて説明があった。

講演終了後、風力発電機の展示品を使ったデモンストレーションに加え、機械工学科学生による天ぷら油の廃油を再生利用したバイクの走行実験が行われ、研修生の質問が相次ぐ中関心の高さが窺えた。研修生は2時間弱の行程を終え、次の目的地に向かった。

